

令和7年度第1回 大分県文化振興県民会議 議事録（主な意見）

令和7年8月28日（木）14:00～16:00

県庁新館5階51会議室

■議題1 大分県文化振興基本方針及び大分県文化創造戦略の改定について

（大分県文化振興基本方針に関する意見）

○第3基本理念について、次の意見があった。

・地域文化の継承は重要な理念だが、実際には小さな地域で人材不足により伝統が途絶えるケースもある。文化の復活は容易ではないが、「かつてこの地域にこんな文化があった」という記録を残すことは非常に大切。市町村単位など小さなスケールでも、過去の文化を記録し、将来その地域が再び人の集まる場所になるかどうかに関わらず、情報を保存する仕組みが必要。文化政策には、前向きな取り組みだけでなく、過去の文化を記録・保存する視点も欠かせないと思う。

○基本視点①豊かな人間性と創造性の育成について、次の意見があった。

・芸術に触れることで多様な文化への理解が深まり、寛容さや多様性の受容につながると考える。芸術文化と多様性の関係は、積極的に打ち出すべき。
・「多様性」が強調されており、障害者アートや子ども、高齢者支援など、大分県独自の視点が光っていると感じる。

○基本視点②伝統の継承と新たな新たな文化の開花について、次の意見があった。

・従来の三浦梅園に加え、滝廉太郎や朝倉文夫など、明治以降の人物も記載されており、良い改定だと思う。
・田能村竹田や三浦梅園などの事例に加え、赤瀬川原平らによる現代芸術の推進など、歴史的にも先進的な地域であると感じる。若手作家の発掘なども含め、伝統を踏まえつつ多様な人材で新しい文化を創る方向性は意義深い。

○基本視点③創造県おおいたの推進について、次の意見があった。

・基本視点①②に対し、③は書き方が異なっており、統一感に欠ける印象がある。具体的な施策や芸術家の名前を加えることで、内容をより充実できるのではないか。
・基本方針に「創造県おおいた」が明記されたのは大きな前進。今後「おんせん県おおいた」のように広く浸透させるには、ロゴの活用など広報戦略が重要。OPAMのフライヤーにロゴを入れるなど、関連事業に統一的に使うことでブランド力が高まると思う。

(大分県文化創造戦略に関する意見)

○重点戦略については、次の意見があった。

- ・具体的事業が示され、従来の5つから4つに整理され、文言も簡潔になっており、良い変更だと思う。産業・観光・福祉などとの連携も進み、全体として整理された印象を受ける。
- ・課題と戦略の対応関係は結びつきが見えるとより分かりやすくなると思う。特に「地域固有の芸術文化の継承と活用」は課題として挙げられているものの、戦略ではやや目立ちにくい印象がある。
- ・重点戦略に「担い手の育成」「他分野連携・地域活性化」などが挙げられているが、「デザイン」の視点が欠けている点が気になる。「デザイン思考」は産業や観光、教育など多方面で重要であり、芸術文化だけでなく、社会構造や地域連携にも関わる「デザイン」を戦略の中に加えてほしい。

○重点戦略1「鑑賞機会の充実」については、次の意見があった。

- ・大分市中心部と他市町村では、芸術文化の鑑賞・創造機会に大きな差があり、地方ほど機会が少ないのが現状であり、強い危機感を持っている。市町村との連携が触れられているが、重点戦略でも地方住民の鑑賞機会確保について、より明確な記述が必要。
- ・「子どもから高齢者まで」とあり、約10項目が挙げられているが、もう少し“尖った”取り組み、特に子ども世代に響く具体策を加えるべきだと思う。今の子どもたちは多様なエンタメに囲まれており、芸術文化を選んでもらうには“刺さる”戦略が必要。たとえば、チームラボ展と同日の高山辰雄展では来場者数の増加など相乗効果が出ている。子どもの頃の楽しい記憶が、大人になってからの再訪や次世代への継承につながる。重点戦略に「子ども向け」に絞った企画を1つ入れることで、意義ある取り組みになると思う。

○文化創造戦略の評価については、次の意見があった。

- ・「鑑賞機会の充実」や「芸術文化活動への支援」は記載の指標である程度評価可能だと思う。一方で、「担い手の育成」や「他分野連携・地域活性化」については評価方法がやや曖昧で、もう少し具体的な指標が必要だと感じる。

■議題2 令和7年度の主な事業について、次の意見があった。

- 広報活動について、県による広報の取り組みは進んでいるが、運営側では難しさもある。広報誌を季刊で発行し、OPAM や市町村ホール、協賛企業が情報を発信する形にすれば、県民への周知が進むと思う。特に小中学生への配布は効果的。オーケストラ運営でも広報は課題で、支援があると助かる。
- 小ホールの必要性について、大分市にはクラシック向けの小ホールがなく、ホルトホールは音響面で不十分。演奏者と観客をつなぐ場として、小ホールの整備・活用は今後の課題。
- 将来を担う子どもたちへの支援は重要。親子向けコンサートも開催しているが、広報が難しく、学校を媒体として活用するのも一案。
- 音楽教育では、入試科目化は現実的に難しいため、県独自の「音楽検定」導入を提案したい。有名な 100 曲を対象にした検定を小中学生向けに実施し、地域ごとに展開するのも面白いと思う。
- 大分市では小学生が市立美術館に行く夏休み課題があり、無料参加は素晴らしい取り組み。これを戦略に落とし込み、市町村ホールのイベントに小中学生を無料招待し、入場者数に応じて補助金を支給する仕組みを導入してはどうか。人口比に応じて単価を調整すれば、地域間の公平性も保てる。
- 「創造都市」に注目している。ユネスコのクリエイティブシティとして、世界各地で文化が経済効果を生み出し、観光と連携することで地域が潤っている。大分県でも、観光業と連携し、芸術文化を通じて地域の魅力と経済を高める取り組みが期待される。今後は、芸術文化のチームが中心となり、観光局などと連携して「大分県を豊かにする」活動を進めてほしい。
- 大分県は製造業が盛んだが、伝統工芸や文化的要素は点在している印象。それらを「創造県 おおいた」という言葉で、一つにまとめて発信することで、温泉などと組み合わせた魅力的な PR が可能になると感じる。
- 今の子どもたちは SNS の影響もあり、感性が非常に豊かで、“映える”をよく理解している。高校生がグループで起業的な活動をしている例も多く、行政のアウトリーチだけでなく、SNS を活用して地域格差なく人材を掘り起こすことも県の役割として有意義だと思う。「芸術起業塾」のような取り組みを通じて、機会を提供し人材を育てていくことも意義がある。

○チームラボの展示初日に動画撮影を行い、大きな反響があった。動画、特にリールの効果は非常に高く、初動の良さにもつながった。会場は連日賑わい、家族連れも多く、「行かないとやばい」という空気感も生まれている。ハーモニーランドとのコラボもタイミングが良く、経済効果も出ている。

○「伝統文化」については、観客層に限られ、担い手の中堅層も減少傾向にある。後継者育成には早期の具体策が必要。流派など複雑な要素もあるが、動画などを活用した発信で広がり期待できる。子ども向け事業だけでなく、中高生や大学生などアンダー25世代が継続的に伝統文化に触れられる新しい取り組みも必要だと思う。